

下水道分野における国際活動推進に関する課題集約分類表(検討素案)

関係者 段階	相手国	日本国										
		日本側共通	日本政府	JICA・JBIC	JSほか	地方自治体	民間共通	民間企業				
								コンサル	メーカー	ゼネコン	メンテ	
全般	<ul style="list-style-type: none"> 国内基礎情報不足 効率、モラル 専門人材極不足 制度インフラ不足 資金不足 変化の激しさ(リスク) (為替・課税・インフレ) 管理の重要性理解不足 	<ul style="list-style-type: none"> 国際人材不足 海外情報・人脈不足 実施までの期間が長すぎ ODAの量拡大 国内のみの規格 大学・NPO連携 相手国ニーズと日本独自技術とのギャップ <p>日本での下水関連規格が海外では認知されておらず、市場参入障壁となっている(特に更生分野)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 省庁ほか連携不足 民間との連携マインド不十分 (国内・大使館) 	<ul style="list-style-type: none"> 分野専門家不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 目的、業務制限 	<ul style="list-style-type: none"> 国際活動の認識不足 市民の認識不足 情報・連携不足 	<ul style="list-style-type: none"> リスクに対して低い収益性 コスト高(日本人、質意識、国際調達・ケア体制) 短期資本効率要求 (先行投資困難) 総合企業欠如 仏巨大企業・中韓台頭 事業運営経験なし コンプライアンス カンントリーリスクの個別判断 	<ul style="list-style-type: none"> 調査人月が少ない 国の個別事情に依存 	<ul style="list-style-type: none"> 拠点の立上げ・維持継続(仕事量・プロジェクト量の継続性) 海外通スタッフ・要員不足 プロマネ育成 ローカルスタッフ雇用 SV・エンジニアリング力の向上 コスト力、運営事業ノウハウ不足 			
案件発掘・形成	<ul style="list-style-type: none"> 国、都市の基本計画不足 	<ul style="list-style-type: none"> 特に海外情報・人脈不足 特にプロ形調査人材(技協等) 国・都市別下水道整備計画の把握 		<ul style="list-style-type: none"> 人脈フォロー 			<ul style="list-style-type: none"> 相手国交渉窓口が不明 相手国ニーズ(ex.低コスト)と日本が得意とする技術の乖離 	<ul style="list-style-type: none"> 調査費不足 情報収集能力の不足 受注確度の確保 日本の差別化技術スペックインの動機付け <p>手間が大幅増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> 複数拠点の維持とスタッフ常駐の費用対効果 			
協力要請	<ul style="list-style-type: none"> 現地資金不足 							<ul style="list-style-type: none"> 現地ODA関係者との連携困難 				
審査				<ul style="list-style-type: none"> ODAとして審査方法・条件に制約 					<ul style="list-style-type: none"> 必要なM/M(人月)や予算の適正確保 			
入札	<ul style="list-style-type: none"> 品質判定の困難 	<ul style="list-style-type: none"> 主要機材認定制度の有無、内容把握 建設材料、運転薬品等の流通状態・コスト把握 		<ul style="list-style-type: none"> アンタイト PQ(Pre-Qualification; 事前審査)条件の制約 設備の一式計上が多い(結果持出し) 			<ul style="list-style-type: none"> 入札費用負担リスク(特に単純価格競争案件) 	<ul style="list-style-type: none"> QBS(Quality Based Selection; 品質による業者選定)の適用 	<ul style="list-style-type: none"> 現地企業・エージェント・サブコン情報不足 国際調達力・コスト力不足 			
実施	<ul style="list-style-type: none"> 設計・施工管理に現地コンサルタント参画の場合、知識・経験不足 承認・工程遅延 			<ul style="list-style-type: none"> 仕様・設計変更が難 				<ul style="list-style-type: none"> 現地政府機関との調整 税務問題 ローカルの質の低下 	<ul style="list-style-type: none"> 現地プロジェクトマネジメント能力不足 国により品質・工程管理に多大な労力 			
事後	<ul style="list-style-type: none"> 特に運営の資金・能力不足 現地運転管理会社、社員等のモラル・質の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 事後調査が限定的 	<ul style="list-style-type: none"> ODAの管理非適用 					<ul style="list-style-type: none"> 維持管理・行政・事業運営経験者の不足 案件終了後は現地政府の低い単価 	<ul style="list-style-type: none"> O&Mトレーナーの不在 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> 発展途上国で下水の料金回収は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 水の再利用などの視点が弱い 						<ul style="list-style-type: none"> 人材育成にかかる時間とコストが増大 海外業務の低収益性 				

下水道分野における国際活動推進に関する対策アイデア表(検討素案)

	相手国	日本国									
		日本側共通	日本政府	JICA・JBIC	JSほか	地方自治体	民間共通	民間企業			
								コンサル	メーカー	ゼネコン	メンテ
全般	<ul style="list-style-type: none"> 下水道の基本理解(必要性・難しさ・運営の重要性ほか) 政策目標づくり(制度・組織・金) 知財保護の制度づくりと実行 実施体制づくり 基準・マニュアルづくり 基礎情報整備 	<ul style="list-style-type: none"> 情報センター 人材センター(育成・プール) 国別の集中調査、体制づくり ODA迅速化 事業運営受け皿組織 民から国機関、海外公館への出向 日本規格のアジア標準化、相互読替(米・欧・アジア) 国際規格化組織 総合性能PR(寿命、故障率、メンテしやすさ等vs価格) 官民人事交流(官へ最新技術、民へ途上国実情等) 留学、研修生(特に要職者)のフォロー(勤務先把握、最新情報提供等) 	<ul style="list-style-type: none"> 水衛生無償の大幅増 水衛生協力推進会議 大使館・専門家教育(専門・民支援情報) 民間補助(FS・技術開発) 開発技術のODA採用 DBO型円借款の導入 ソフト支援(制度・体制) 新技術早期採用制度 海外実績考慮 相互技術認証 モデル実施 企業投融资 企業への保証・推薦 	<ul style="list-style-type: none"> 分野専門家の増 JBICコンサルの無償化 現地非課税化 分野優遇の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 海外業務化 スベック緩和 	<ul style="list-style-type: none"> 国際協力パンフ・イベント 積極連携 人的貢献体制 性能発注、スベック緩和 DBO発注試行 	<ul style="list-style-type: none"> 国際先行投資(人・金) 国際調達・ケア体制づくり 総合企業づくり 自社の海外戦略立案(企業属性や取扱商品にもよる) 海外経験ある人材(自治体OB等)の採用 海外入札資格の獲得 現地企業との連携(発掘、育成、設立) 		<ul style="list-style-type: none"> 海外調査(現地完結力の強化) 海外対応仕様のラインナップ 運営事業対応人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> 維持管理重要性のPR 現地での維持管理会社との提携 	
案件発掘・形成		<ul style="list-style-type: none"> 主要各国に専門家常駐化 その他の国に定期調査団 基礎情報収集と共有 下水道事業の意義のPR 技術推薦 <p>水環境保全の視点で、上水道と同レベル優先度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 官民タスクフォース形成 相手国ニーズの把握(制度、技術、資金、人材…) 把握したニーズ情報の関係者間での共有 戦略的な対応や行動の旗振り 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 品質要件化 日本の独自技術把握 		<ul style="list-style-type: none"> 海外企業関連情報等の官民共有 コンソーシアム参加 					
協力要請											
審査											
入札		<ul style="list-style-type: none"> 評価要素の提案(総合性能) 		<ul style="list-style-type: none"> タイト増 継続随意契約 日本の技術を考慮したPQ化 入札前後のVE制度適用 日本企業の海外入札資格取得支援 	<ul style="list-style-type: none"> 海外調達品の国内採用(要求品質緩和) 	<ul style="list-style-type: none"> 海外調達品の国内採用(要求品質緩和) 					
実施	<ul style="list-style-type: none"> 運営主体としての能力確保 								<ul style="list-style-type: none"> 国内発注方式見直しで国内PM育成 		
事後	<ul style="list-style-type: none"> 特に運営財源・能力づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 料金徴収アドバイス(例、上下水一体化、税金化) 	<ul style="list-style-type: none"> ODAの管理適用 現地O&M責任者育成を前提とした外国籍O&M作業員の就労制限緩和 								
その他	<ul style="list-style-type: none"> 水環境へのシフト: 再利用・上水化(日本の高度技術活用) 		<ul style="list-style-type: none"> ODA以外の海外プロへの債務保証(例、シンガポール) 								